

上 令 水	下 和	水 8	道 年	交 9	通 月	委 1	員 5	会 日	局
-------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---

横浜市こども・子育て基本条例に基づく
令和7年度のこどもの意見表明に関する取組状況について

1 趣旨

横浜市こども・子育て基本条例（令和7年4月1日施行、以下「条例」という）第14条の規定に基づき、令和7年度の水道局における、こどもの意見表明に関する取組状況等について報告します。

2 条例における位置づけ

条例において、こども・子育てに関する施策を推進するに当たっては、こどもが、社会を構成する一員として、その年齢及び発達の程度に応じて、意見を表明する機会を確保し、その意見を施策に反映させるよう努めること、こども・子育てに関連するあらゆる分野における施策を講ずるに当たっては、こどもの視点を重視するよう努めること等が市の責務として位置付けられています。（第5条）

また、市長は、毎年、こども・子育てに関する施策へのこどもの意見の反映の状況等について、市会に報告することとされています。（第14条）

今回報告する取組の範囲は、施策・事業・取組への反映を主な目的として、アンケートやワークショップ、会議、意見公募、インタビュー・ヒアリングなど、こどもから直接意見を聴いているもののうち、次の内容に該当するものとしています。

- 本市（指定管理者・委託事業者を含む）が主催・共催している
- こども・若者（未就学児から20代程度まで）が意見を聴く対象に含まれている
- すべての市民等を対象とする取組については、こども・若者から意見を聴くための工夫を行っている

（例）・難しい漢字や用語を使わずに、一般向けとは別に、こども・若者にわかりやすく書かれた資料を使っている
・特にこども・若者に特化した広報PRを行っている

4 水道局の取組状況

取 組 ①	水道週間イベントやはまっ子水道まつりの来場者に対するアンケート実施 【広報課】
取組内容	水道に関する理解促進を目的とする「水道週間」（6月1日～7日）や、水資源・水循環への理解促進を目的とする、「水の週間」（8月1日～7日）に合わせ、横浜市の水道をPRするイベントを市庁舎アトリウムで開催した。 来場者に、イベントへの満足度や、水道水に対するイメージを把握するためのアンケートをこども用（小学生～高校生）、大人用に分けて実施した。 
対 象	小学生～高校生（157人）
実施時期	令和7年6月7日、8月1日
主な意見と活用方法等	イベント内容に関する回答は、局内各課及び出展者に共有し、次年度のイベントの参考とした。また、水道水に関するアンケートは「水道水を飲む」との回答が7割以上だった。理由として「家族みんなが飲んでいるから」、「つめたいから」、「おいしいから」などの回答があった。こうした意見を踏まえ、水道水の魅力や安全性を伝える広報・PRの参考としたい。

4 水道局の取組状況

取 組 ②	水源林間伐ボランティア体験ツアーにおける学生とのワークショップ 【広報課】
取組内容	水道局と連携協定を締結している4大学を対象に、横浜市の水源地のひとつである山梨県道志村にて、水源林保全のための間伐を体験することができるバスツアーを実施した。 プログラムのひとつとして、技術継承や今後の水道事業運営のための「人材確保」という水道局の課題について、ワークショップを実施した。 ワークショップでは「水道局で働いてみたい」と思ってもらえるような広報についてグループで検討した。 
対 象	連携大学（4校）の大学生（17人）
実施時期	令和7年9月2日
主な意見と活用方法等	ワークショップでは、SNSや電車広告などの積極的活用、体験を通じた水道事業の必要性や価値を知る機会の創出、企業の合同説明会への参加、就活サイトの活用、高校等への訪問、卒業生訪問などの意見が出た。 これらの意見は、水道局の採用試験に向けての学生への広報の参考としたい。

4 水道局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	水道週間イベントやはまっ子水道まつりの来場者に対するアンケート実施	広報課	小学生～高校生 (157人)	令和7年6月7日、 8月1日	イベント内容に関する回答は、局内各課及び出展者に共有し、次年度のイベントの参考としたい。また、水道水に関するアンケートは「水道水を飲む」との回答が7割以上だった。理由として「家族みんなが飲んでいるから」、「つめたいから」、「おいしいから」などの回答があった。こうした意見を踏まえ、水道水の魅力や安全性を伝える広報・PRの参考としたい。
2	水源林間伐ボランティア体験ツアーにおける学生とのワークショップ	広報課	連携大学（4校） の大学生（17人）	令和7年9月2日	ワークショップでは、SNSや電車広告などの積極的活用、体験を通じた水道事業の必要性や価値を知る機会の創出、企業の合同説明会への参加、就活サイトの活用、高校等への訪問、卒業生訪問などの意見が出た。 これらの意見は、水道局の採用試験に向けての学生への広報の参考としたい。
3	中学校出前教室において、生徒に対して、普段家で飲んでいる水や、効果的な広報手段についてのアンケート実施	広報課	中学2年生（85人）	令和7年5月20日	普段家で飲んでいる水についての質問では、水道水との回答が7割以上だった。理由としては、「便利だから」、「安心できる」といった回答が多かった。 効果的だと思う広報手段についての質問では、ウェブサイトやYouTube、イベントとの回答が多かった。今後の広報の参考としたい。

4 水道局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
4	水源地ツアー参加者アンケート	浄水課	小学4～6年生と保護者（15人）	令和7年8月6日	参加者からは、「水源地の大切さがわかった」「水道水を積極的に飲もうと思った」など、水道事業への理解を示す意見が多く寄せられた。一方、滞在時間が短いなど、ツアー行程に関する課題も挙げられた。 今後は、これらの課題を踏まえ、より良いツアーの実施を通じて、多くのこどもたちに水道事業への理解を深めてもらいたい。
5	子どもたちが水道水を飲む文化を育む事業における直結給水工事後のアンケート実施	給水維持課	工事対象校の小学4～6年生、中学生（165人）	令和7年6月～8月	アンケートでは「工事前よりも水が冷たくなりおいしくなった。」「直結給水に切り替えた蛇口に貼り付けるシールが分かりやすい。」などの回答があった。 直結化したことによる実感の変化について評価すると共に、今後の事業計画に活用したい。 直結給水の蛇口に貼り付けるシールの分かりやすさに関する意見を今後の参考としたい。
6	職業体験における中学生からの意見聴取	鶴見水道事務所 洋光台水道事務所 三ツ境水道事務所	中学生（17人）	令和7年10月～令和8年2月	「電話対応をもっとやってみたい」「水道管が漏水した時の修理の実技が印象に残った」などの意見が寄せられた。 いただいた意見や感想を踏まえ、今後の職業体験プログラムの内容の充実や実施方法の改善に活用したい。